

審査結果報告書

平成28年 2月 2日

主査 氏名

岩村 正嗣



副査 氏名

天羽 康之



副査 氏名

佐々木 治一郎



副査 氏名

益日 典幸



1. 申請者氏名 : DM12016 田雑 有紀

2. 論文テーマ :

Bifunctional roles of survivin- Δ Ex3 and survivin-2B for susceptibility to apoptosis in endometrial carcinomas

(子宮内膜癌におけるアポトーシス誘導機構に対する survivin- Δ Ex3 および survivin-2B の2つの機能)

3. 論文審査結果 :

アポトーシスの阻害因子の一つである Survivin は種々の癌組織で発現し、細胞死を抑制することで癌の発育と進展を促進することが知られている。また、Survivin には複数の variant form が存在し、それぞれが異なる生物活性を発現することで細胞分裂を制御していることが報告されてきた。しかしながら子宮内膜癌における Survivin 遺伝子ファミリーの機能は未だ十分に解明されていない。

本論文は、子宮内膜癌の発育と進展における Survivin の意義を解明するため、臨床で得られた検体ならびに培養細胞を用いて Survivin-wt とその splicing variant である Survivin- Δ Ex3、Survivin-B2 の局在や発現制御機構につき分子生物学的、臨床病理学的に検討した網羅的研究である。その結果、申請者らは Survivin- Δ Ex3 と Survivin-B2 が互いに antagonist として働き、外因性あるいは内因性アポトーシス経路をそれぞれ促進あるいは抑制する機能を有することを見出し、子宮内膜癌において Survivin-wt と Survivin- Δ Ex3 が細胞増殖あるいはアポトーシスを制御する重要な因子であることを明らかにした。

研究計画には科学的な根拠があり、用いた研究方法も極めて先進的である。また、得られた結果は十分客観的に評価され、妥当な結論へと導かれている。

以上、本論文は学位論文としてふさわしいものと判断した。